

## Memory viewer（メモリービューワー）の使いかた

この説明書はプロジェクターメモリービューワー機能の取扱説明書です。メモリービューワー機能の操作はこの取扱説明書に従って行ってください。  
はじめに、プロジェクター本体の取扱説明書をご覧頂き、プロジェクターの基本的な取り扱い、注意事項をよくお読みください。  
説明書に記載されている注意事項は必ずお守りください。  
Macintosh には一部の機能が対応していません。

### - 目次 -

メモリービューワー機能とは.....	2
メモリービューワー機能で使用する USB メモリについて .....	3
USB 端子について.....	3
メモリービューワーモードのダイレクト起動.....	4
メモリービューワーモードへの入り方.....	5
メモリービューワーブラウザウィンドウの表示.....	6
メニュー項目の選択 .....	7
マニュアルモードでの画像の再生.....	8
プログラムモードでの画像の再生（Windows 専用）.....	8
画像再生中のボタン操作（マニュアルモード、プログラムモード共通）.....	9
メモリービューワーの終了.....	9
USB メモリヘデータをコピーする.....	10
USB メモリをフォーマット（初期化）する.....	11

## メモリービューワー機能とは

プロジェクターを使っでのプレゼンテーションや画像の投映を、コンピュータや外部機器を使うことなくプロジェクター自身で行なえる機能です。

USB メモリにファイルを収録し、プロジェクターに設けられた USB 端子に差し込むだけで、これらのファイルを投映できます。このため、ファイルの投映のためにコンピュータや外部機器を持ち運ぶ事なく、投映する場所にプロジェクターと画像を収録した USB メモリを持参するだけで画像の投映が行なえます。

### Windows でご使用の場合

本機には、メモリービューワーで再生する画像を編集する専用ソフト「Network Viewer 5」（ネットワークビューワー 5）が付属しております。画像、写真データ、および PowerPoint データを、ソフトウェアが持つ豊富な編集機能で編集する事ができます。ネットワークビューワーソフトの詳細につきましては、別冊「ネットワーク取扱説明書 [Windows 版]」の「9. ネットワークビューワー」を参照してください。

### メモリービューワーで再生できるファイルフォーマット

メモリービューワーで再生できるファイルフォーマットは以下のとおりです。

- ビットマップファイル
- PNG ファイル
- GIF ファイル
- JPEG ファイル
- テキストファイル
- Network Viewer 5 [Program Editor] で作成したプログラムファイル (.dpf)

### メモリービューワーで再生できる JPEG ファイルについて

メモリービューワーで再生可能な JPEG ファイルの解像度は、8192 x 8192 ドットまでです。なお、Network Viewer 5 [File Converter1,2] で変換していない JPEG ファイルは再生の保証対象外です。再生できないファイルは、Network Viewer 5 [File Converter1,2] で変換してください。

### メモリービューワーで再生できるテキストファイルについて

メモリービューワーがサポートするテキストデータの日本語文字コードは「シフト JIS、第二水準」のみです。その他の文字コードはサポートしていません。

### データのバックアップ保存について

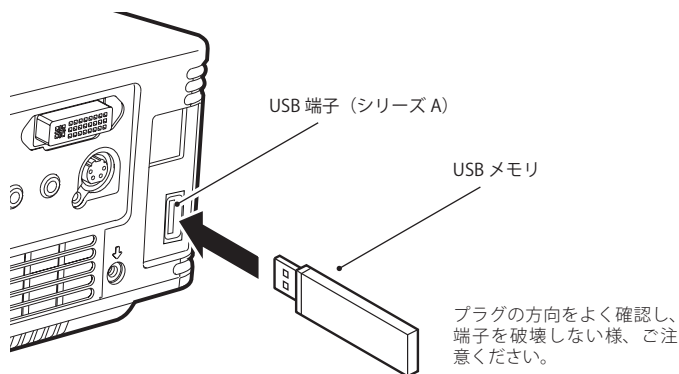
Network Viewer 5 [File Converter1,2] で編集するデータおよび USB メモリに収録するデータは、安全のため、前もって別の記録メディアに保存してください。本機能の使用におけるデータの消失や破損は、当社では一切の責任を負いません。

## メモリービューワー機能で使用する USB メモリについて

本機のメモリービューワー機能は USB メモリを使用します。市販品のほか、本機に付属している「Auto Capture」プログラムが入った USB メモリも使用できます。なお、購入後初めて使う USB メモリや、PC など他の機器で初期化した USB メモリは、必ず本機でフォーマット（初期化）してからご使用ください。他の機器でフォーマットされた USB メモリは、本機では認識しない場合があります。また、ご使用になる USB メモリは、インジケータ付きの USB メモリをお勧めします。

## USB 端子について

USB 端子はプロジェクター後面に用意されています。USB メモリを USB 端子に挿入すると、USB メモリのインジケータが点灯します。



USB メモリからのデータ読み出しなど、USB メモリへのアクセス中に USB メモリを抜かないでください。アクセス中に USB メモリを抜くことは、USB メモリ内のデータが破損する原因となります。

## USB メモリの取り付け、取り外しのご注意

USB メモリのプロジェクターへの取り付け・取り外しは、以下の事にご注意ください。

- ・インジケータ付きの USB メモリの場合、USB メモリをプロジェクターに取り付けるときや、プロジェクターが USB メモリのデータの読み出しを行なっているときに、USB メモリのインジケータが点滅します。インジケータの点滅中は USB メモリを取り外さないでください。
- ・インジケータが付いていない USB メモリの場合、プロジェクターが USB メモリにアクセスしているかどうかを判断できませんので、USB メモリの取り外しは、メモリービューワーを終了させた後、またはプロジェクターの電源を切った後に行なってください。
- ・メモリービューワーが起動していないときは、プロジェクターの電源状態にかかわらず USB メモリの取り付け、取り外しを行なえます。
- ・メモリービューワーの起動中に USB メモリを取り外すと、表示画像が消えて「USB メモリが挿入されていません」のエラーメッセージが表示され、5 秒後にメモリービューワーが終了します。
- ・プロジェクターへの USB メモリの取り付け・取り外しを頻繁に行なわないでください。
- ・USB メモリを取り付けた後、約 5 秒たってから取り外してください。また、取り外した後に再び取り付けるときにも、約 5 秒たってから行なってください。USB メモリの取り付け、取り外しのとき、プロジェクターはこれらの準備処理を行なっています。

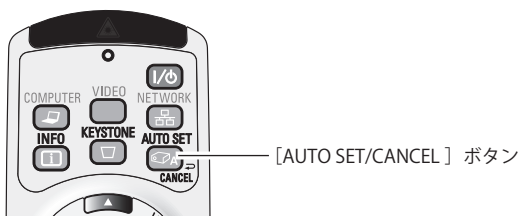
## メモリービューワーモードのダイレクト起動

USB メモリを USB 端子に挿入するとメモリービューワモードがダイレクト起動し、プロジェクターの入力モードが「ネットワーク」に自動で切り換わり、USB メモリのルートディレクトリに保存されている画像が投映されます。ダイレクト起動時のプロジェクターの状態と制限は以下のとおりです。

- \* ネットワークは、「LAN モード選択」で最後に選択した LAN モードに設定されます。
- \* USB メモリのルートディレクトリに画像がない場合は、メモリービューワーブラウザウィンドウが表示されます。
- \* ネットワークキャプチャー機能、ネットワークビューワー機能、USB ディスプレイ機能、司会者機能の動作中は、メモリービューワーモードのダイレクト起動は動作しません。
- \* メモリービューワーモード中に電源をオフにすると、次回の電源オン時にメモリービューワーモードで起動し、USB メモリのルートディレクトリに保存されている画像が投映されます。

メモリービューワーモードでリモコンの [AUTO SET/CANCEL] ボタン、または操作パネルの [AUTO SETUP/CANCEL] ボタンを押すと再生を終了し、メモリービューワーブラウザウィンドウ (☞ p.6) が表示されます。入力モードを切り換えずに USB メモ리를 抜いた場合は、USB メモ리를 挿入する前の入力モードに戻ります。

リモコン



- ☞ USB メモ리를 抜いてすぐ挿入するとダイレクト起動しません。
- ☞ ネットワークビューワー、USB ディスプレイ、および司会者機能は、Mac OS には対応していません。



### USB メモリの取り扱い・保管上の注意

- USB メモリおよびそのキャップを乳幼児の手の届くところに置かないでください。誤って飲み込むと窒息の恐れがあります。
- 煙が出た場合、または異臭がした場合は直ちに周辺機器の電源を切り、販売店までご連絡ください。
- USB メモ리를 水、薬品、油などに触れさせないようにしてください。ショートや火災の原因となります。
- 本製品のコネクタ部（接続部）に異物を入れたり、また、金属物を当てたりしないでください。静電気により内部データが破損、または消去する恐れがあります。
- USB メモリへのデータの書き込み、読み出し中にコンピュータおよびプロジェクターから引き抜いたりしないでください。USB メモリの破損やデータ消失の原因となります。
- 高温・多湿、チリの多い場所、磁気の影響を受ける場所での保管はさけてください。

## メモリービューワーモードへの入り方

USBメモリが既にUSB端子に挿入されていて、あらためてメモリービューワーモードへ入る場合は、以下の手順で操作します。

1. プロジェクターの「入力」メニューで、プロジェクターの入力モードを「ネットワーク」に設定します。ネットワーク接続待機画面が表示されます。
2. プロジェクターの「ネットワーク」メニューで「メモリービューワー」を選択して [SELECT] ボタンを押し、「スタート」を選択して [SELECT] ボタンを押します。



3. メインメニューが消えて、USBメモリのルートディレクトリに保存されている画像が映射されます。USBメモリのルートディレクトリに画像がない場合は、メモリービューワーブラウザウィンドウが表示されます。

以下の機能の使用中は、メモリービューワー機能を使用できません。また逆に、メモリービューワー機能の使用中は、以下の機能を使用できません。

ネットワークビューワー、ネットワークキャプチャー、USBディスプレイ、司会者機能

## メモリービューワーブラウザウィンドウの表示

メモリービューワーモードでリモコンの [AUTO SET/CANCEL] ボタン、または操作パネルの [AUTO SETUP/CANCEL] ボタンを押すと以下のメモリービューワーブラウザウィンドウが表示されます。

### サムネイル表示 (例)

現在のディレクトリパスを表示



### ファイル名一覧表示 (例)

現在のディレクトリパスを表示



ブラウザウィンドウは、メモリービューワーモード中にプロジェクトの「メモリービューワー」メニューの「スタート」を選択することでも表示できます。

すべてのサムネイル画像の描画が完了する前に、[ポイント] ボタンで画像を選択することができます。

([ポイント] ボタンが押された時点で新たなサムネイル画像の描画が中断されますが、操作は有効です)

容量が10MBを越えるファイルはサムネイル表示されません。サムネイルの代わりにアイコンが表示されます。

## メニュー項目の選択

1. [AUTO SET/CANCEL] ボタンを押すと、カーソルがファイル選択ウィンドウからメニュー項目へ移動します。
2. [ポイント] ボタンを使用してサブメニューを選択し、[SELECT] ボタンを押します。キャンセルは、[AUTO SET/CANCEL] ボタンを押します。

## メニューツリー

メニュー	サブメニュー	説明
メニュー	マニュアルモード	再生するファイルを個別に選択するモードです。 表示可能なファイルフォーマットについては、2 ページを参照してください。 対応外のファイルは表示できません。
	プログラムモード	Program Editor で作成したプログラムファイル (.dpf) を選択するモードです。 * Mac OS には対応していません。
	フォーマット	USB メモリを初期化します。
表示	サムネール	ファイル名をサムネール付きでブラウザウィンドウに表示します。
	ファイル名一覧	ファイル名のリストをブラウザウィンドウに表示します。
設定	日本語 <>	メニューの言語 (日本語・英語) を選択します。◀▶ ボタンで設定します。
	3 秒 <>	自動再生時の画像表示時間を設定します。◀▶ ボタンで設定します。(3 ~ 240 秒の範囲内)
	0 回 <>	自動再生時の再生回数を設定します。◀▶ ボタンで設定します。(0 ~ 255 回の範囲内)。0 はエンドレス再生の設定です。
終了		メモリービューワーを終了します。

## アイコンの説明



フォルダアイコンです。[SELECT] ボタンでフォルダ内のファイルを表示します



上位ディレクトリアイコンです。[SELECT] ボタンで上位ディレクトリへ移動します



JPEG ファイルアイコンです



BMP (ビットマップ) ファイルアイコンです



PNG ファイルアイコンです



GIF ファイルアイコンです



テキストファイルアイコンです



プログラムファイルアイコンです (プログラムモードで再生可能)



サポートしないファイルアイコンです

## マニュアルモードでの画像の再生

1. メモリービューワーのブラウザウィンドウで、「メニュー」-「マニュアルモード」を選択し、[SELECT] ボタンを押します。
2. [ポイント] ボタンを使用し、表示したいファイルを選択します。[SELECT] ボタンを押すと、スクリーン上に選択した画像が再生されます。
3. ファイル再生中に、[ポイント] ボタン▲▼で表示ファイルを切り換える\*ことができます。また、[ポイント] ボタン▶でフォルダ内ファイルを自動再生します。ボタン操作の詳細は次ページを参照してください。  
\* 前後の画像以外の別の画像を表示したい場合は、リモコンの [AUTO SET/CANCEL] ボタン、または操作パネルの [AUTO SETUP/CANCEL] ボタンを押してブラウザウィンドウに戻って、画像を選択します。

## プログラムモードでの画像の再生 (Windows 専用)

1. メモリービューワーのブラウザウィンドウで、「メニュー」-「プログラムモード」を選択し、[SELECT] ボタンを押します。現在ブラウザに表示しているディレクトリの直下にある「DispParam」フォルダのプログラムファイル (.dpf) が表示されます。  
\* 現在ブラウザに表示しているディレクトリの直下に DispParam フォルダがない場合には、ディレクトリにあるフォルダのリストが表示されます。手動操作でプログラムファイルを保存している DispParam フォルダを探してください。
2. ポイントボタンでプログラムファイル (.dpf) を選択し、[SELECT] ボタンを押します。確認ダイアログが表示されますので「OK」を選択して [SELECT] ボタンを押します。プログラム再生が開始され、プログラムで設定した画像が再生されます。プログラム再生時の画像表示期間や繰り返し回数はプログラムファイルに設定されています。プログラムファイルに設定されていない場合には、ブラウザウィンドウの「設定」メニューで設定されている値が有効になります。(☞ p.7)
3. ファイル再生中に、[ポイント] ボタン▲▼で表示ファイルを切り換えることができます。また、[ポイント] ボタン◀でプログラム再生を停止することができます。ボタン操作の詳細は次ページを参照してください。

### プログラムモードご使用上の注意

- \* プログラムファイル (.dpf) は Program Editor で作成します。詳細は別冊の「ネットワーク取扱説明書 [Windows 版]」の「プログラムファイルを作成する [Program Editor]」(☞ p.117) を参照してください。
- \* DispParam フォルダは Program Editor によって作成されたプログラムファイルの保存時に自動的に作成されます。詳細は別冊の「ネットワーク取扱説明書 [Windows 版]」の「プログラムファイルを作成する [Program Editor]」(☞ p.117) を参照してください。
- \* プログラムファイルを手動で USB メモリ内へコピーするときは、「DispParam」フォルダに保存してください。「DispParam」フォルダがない場合には、新しく「DispParam」という名称のフォルダを作成してください。
- \* プログラムモードではプログラムファイル (.dpf) およびフォルダのみが表示されます。その他のファイルは表示されません。



---

## 画像再生中のボタン操作（マニュアルモード、プログラムモード共通）

---

画像の再生中に、リモコンまたは操作パネルのポイントボタンで表示ファイルの切り換えなどが行なえます。

### ポイント 動作

---

- ▲ 前ファイルの再生
- ▼ 次ファイルの再生
- ▶ 自動再生\*<sup>1</sup> / プログラム再生の開始、テキストファイルの下方向へのスクロール\*<sup>2</sup>
- ◀ 自動再生 / プログラム再生の停止、テキストファイルの上方向へのスクロール

\* 1 自動再生での画像表示期間や繰り返し回数はブラウザウィンドウの「設定」メニューで設定します。(☞ p.7)

\* 2 テキストファイルのスクロールは、マニュアルモードの手動再生中のみ行なえます。自動再生中にテキストファイルをスクロールする場合は、[ポイント] ボタン ◀ でいったん自動再生を停止してください。

\* 画像表示中にリモコンの [AUTO SET/CANCEL] ボタン、または操作パネルの [AUTO SETUP/CANCEL] ボタンを押すと画像表示を終了してブラウザウィンドウに戻ります。

## メモリービューワーの終了

---

以下のいずれかの手順でメモリービューワー機能を終了します。

### プロジェクターメニューからの終了

1. プロジェクターの「ネットワーク」メニューで「メモリービューワー」を選択し、[SELECT] ボタンを押します。
2. [ポイント] ボタン ▲▼ で「戻る」を選択して [SELECT] ボタンを押します。

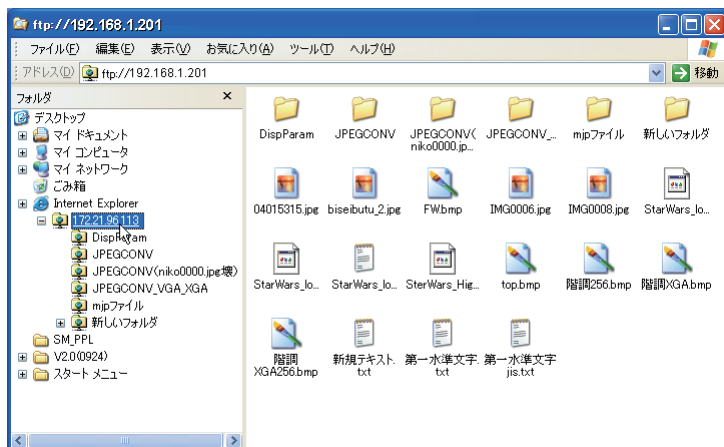
### メモリービューワーモードからの終了

1. メモリービューワーで画像表示中にリモコンの [AUTO SET/CANCEL] ボタン、または操作パネルの [AUTO SETUP/CANCEL] ボタンを押します。ブラウザウィンドウが表示されます。また、プロジェクターの「ネットワーク」メニューの「メモリービューワー」で「スタート」を選択しても同様にブラウザウィンドウが表示されます。
2. ブラウザウィンドウが表示されたら、再度 [AUTO SET/CANCEL] ボタンまたは [AUTO SETUP/CANCEL] ボタンを押します。カーソルがメニュー項目に移動します。
3. [ポイント] ボタン ◀▶ で「メニュー」-「終了」を選択し、[SELECT] ボタンを押します。

## USB メモリへデータをコピーする

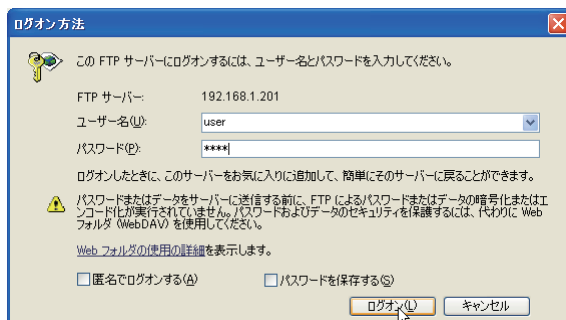
投映データを、コンピュータからプロジェクターに取り付けた USB メモリにネットワークを通じてコピーできます。

1. コンピュータでエクスプローラーを起動し、USB メモリが装着されたプロジェクターの IP アドレス（例えば「ftp://192.168.1.201」）をアドレス欄にタイプします。以下のように USB メモリの内容が表示されます。
2. 投映データを USB メモリにコピーします。



### ご注意

プロジェクターにネットワーク暗証番号が設定されている場合には、以下の認証ダイアログが表示されます。この場合、ユーザー名には「user」、パスワードにはプロジェクターのネットワーク暗証番号を入力します。  
\*ユーザー名は必ず「user」を入力します。



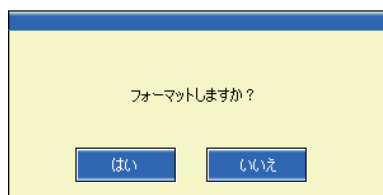
\* Network Viewer 5 [File Converter 1] を使用して変換したファイルを USB メモリを装着したプロジェクターへ直接出力することも可能です。詳細は別冊「ネットワーク取扱説明書 [Windows 版]」のネットワークビューワー「出力先、変換モードの設定」(☞ p.115) をご覧ください。

\* Program Editor を使用して作成したプログラムファイルを、USB メモリを装着したプロジェクターに直接出力することができます。詳細は別冊の「ネットワーク取扱説明書 [Windows 版]」の ネットワークビューワー「プログラムファイルを作成する」(☞ p.117) をご覧ください。

## USB メモリをフォーマット（初期化）する

購入後初めて使う USB メモリや他の PC やカメラで初期化した USB メモリは、必ず本機でフォーマット（初期化）してからご使用ください。他の機器でフォーマットされた USB メモリは、本機では認識しない場合があります。

1. メモリービューワーモードで、リモコンの [AUTO SET/CANCEL] ボタンまたは操作パネルの [AUTO SETUP/CANCEL] ボタンを押します。ブラウザウィンドウが画面上に表示されます。また、画像表示中にプロジェクターの「メモリービューワー」メニューで「スタート」を選択しても、同様にブラウザウィンドウが表示されます。
2. ブラウザウィンドウが表示されたら、再度 [AUTO SET/CANCEL] ボタンまたは [AUTO SETUP/CANCEL] ボタンを押します。カーソルがメニュー項目に移動します。
3. [ポイント] ボタン ▲▼ で「メニュー」-「フォーマット」を選択し、SELECT ボタンを押します。フォーマット確認ダイアログが表示されます。
4. [ポイント] ボタン ◀▶ で「はい」を選択し、[SELECT] ボタンを押してフォーマット（初期化）を開始します。約 1-2 秒程度でフォーマットが終了します。



### [ご注意]

☞ フォーマット中にプロジェクターの主電源を切ったり、USB メモリを取り出ししたりしないでください。USB メモリが破損する場合があります。フォーマット中は USB メモリのインジケータが点滅します。

### 商標について

Windows 2000, Windows XP, Windows Vista, PowerPoint は米国および、その他の国における登録商標または、商標、商品名です。

Mac, Mac OS, および Macintosh は米国その他の国で登録された Apple Computer, Inc. の商標です。説明書に記載のメーカー名および商品名は各社の登録商標です。

\* 本書の記載内容は予告なく変更する場合があります。

\* 説明書に記載の図面形状、および、画面などの表示は実際のものとなる場合があります。



この取扱説明書の印刷には、植物性大豆油インキを使用しています。

メモリービューワー取扱説明書  
1LG6P1P0571-- (MV-KC8CC)

**SANYO**

三洋電機株式会社